



児童の背景に学ぶ

昨日16日(月)は、校内研修で外部から講師を招き、職員全員で学びました。講師は、宮津 美光さんと宮津さんの妻・みどりさんです。私と宮津さんとの出会いは、20年ほど前になります。宮津さんは、地域で子供たちを育てようと様々な活動をされていました。当時、宮津さんは、元気を持って余していた子供たちを集められていました。そして地域活動を通して、子供たちに自信と元気を与えられていたことが印象的でした。その後、慈恵病院の「こうのとりのゆりかご(赤ちゃんポスト)」開設初日に保護された航一さんと養子縁組をされて、話題の人となりました。本校区でも「ふるさと元気『子ども食堂』」を航一さんと共に、毎月第2土曜日に開催されています。講話の中で、35人の里親になられ、その中から見えてきた子育ての在り方を学ぶことができました。宮津さんの地域での子供とのかかわりをまとめると・・・



兄のような立場で
一緒に楽しく遊ぶこと
一緒に楽しく食べること
一緒に楽しく会話すること
一緒に楽しく笑うこと
一緒に楽しく考えること

親のような立場で
・いつも笑顔で接すること(何でも相談できる関係をつくる)
・アイデアをよく聞くこと(子供たちの発想、意見を大事にすること)
・子供たちが認められる機会をつくること(社会とつなぐこと)
・自分たちで考えさせること(主体性を持たせるための組織づくり)
・叱るときは真剣に叱ること(保護者との信頼関係の中で指導できることがある)

宮津さんから学んだことを、本校でも活かしていきたいと思います。

教訓を胸に「阪神・淡路大震災」

今から28年前の早朝、当時大阪に住んでいた弟から、自宅に電話がかかってきました。「揺れている!大阪はとんでもないことになっている!」と地震の様子を伝える内容で、しばらくすると「ツーツ、ツーツ」と途切れてしまいました。その後、報道等で惨状が明らかになり、そのあまりの光景に息をのみました。死者6千人以上、全壊家屋10万棟以上、建物火災約260件の凄まじい被害を出したこの地震は、多くの教訓を残しました。それによって、法整備も進み、熊本地震などの災害対策に役立ってきました。ただ「過去を忘れてしまう者は、過去を繰り返す運命にある」という言葉もあります。今一度、防災へのアンテナを張り、まさかの備えを怠らないようにしましょう。

ユニセフ募金ありがとうございました

「わくわく通信143号」でお知らせしましたユニセフ募金は、短期間で多くの善意の輪が広がり、無事募金を終えることができました。募金を通して、世界の子供たちが、持続可能な未来に向かうために、自分に何ができるかを考えるきっかけになったと思います。ご協力に感謝します。

